

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 元 年 12 月 10 日

事業所名 こどもプラス武雄教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		2	2	・宿題をする場所が無い。（職員室でさせている。） ・怪我が無いように内容を考慮している。 ・定員いっぱいの際は部屋が狭い。 ・室内に大きな柱があるので、その構造を利用した運動もしている。
	2	職員の配置数は適切である		2	2	・送迎が間に合わない場合はヘルプをお願いして増員している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		2	2	・足が弱い児童は職員がついている。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	2	2		・ミーティングでスタッフ全員で改善に向けた話し合いをしている。 ・公休の職員には伝わっていない事もあるので、記録を残し、確認作業を徹底する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1		・アンケートだけでなく日々の送迎の際に保護者と話し、意見の聞き取りを行っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			・ホームページで公開しているが、事業所では出している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2		・出来る範囲のものは改善している。難しいものはスタッフ全員で話し、本社へ提出する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1		・積極的に参加している。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			・モニタリングをし、出来るだけニーズに沿った計画になるように反映させている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2		・アセスメントツールは使用していないが、適応行動へ導くために出来ることをスタッフ間で話し合っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			・児童に合わせた活動を日々スタッフで考え、立案をしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			・その日の利用児童に合わせて、楽しく取り組める活動内容になるように工夫をしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4			・平日は室内で過ごす事が多いため、休日等はイベントを計画して様々な経験が出来る様にしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2	2		・子どもの状況に応じた計画は作成しているが個別や集団活動の組み合わせでの計画には至っていないので、今後検討していく。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			・毎朝のミーティングは必ず行っている。支援内容について疑問を感じた時、児童の帰所後もミーティングを実施している。	

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	・支援の振り返りを行い、情報を共有している。気付いた点等は常に報告し合っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1	・支援した内容を記録している。	
	18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4		・定期的なモニタリングを行い、計画の見直しをしている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	3	1	・一つのものにこだわらず、基本から応用を組み合わせている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		・主に管理者、児発管が参画している。可能な場合は現場の指導員も一緒に参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	3	1	・学校との情報共有や連絡調整は管理者中心に行い、送迎時に得た情報は必ず管理者へ報告している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		3	1	・現在までにおいて受け入れの実績は無いが、今後は視野に含めた支援のかたちを考慮していきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	2	1	・相談支援事業所よりサービス等利用計画を頂き、情報共有を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		3	1	・対象児童がいる場合は情報提供は可能である。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	2	1	・連絡は常にもらうようにし、研修等があれば参加をするようにしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		2	2	・計画はしているものの実現には至っていないので、活用していきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	2	1	1	・自立支協議会より通知が来た時は必ず周知を行い、出来る限り参加をしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			・送迎時に保護者へ利用時の状況を伝えている。お互いの意見交換も行っている。 ・包み隠さず真実を伝える事で保護者との信頼関係を図る。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		3	1	・ペアレントトレーニング支援を行うだけの知識がまだ不足しているが、研修などあれば参加したい。 ・納得のいくまで説明を行う必要があると思う。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			・見学や契約時に必ず行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	1		・連絡があれば対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			4	・今後、保護者も参加できるようなイベントを検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			・苦情があった場合は早急に直接の聞き取りをし、対応をしている。 ・状況は必ず伝え、その上で丁寧に対応をしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			・毎月行事予定と、お便りを発行し配布している。
	35	個人情報に十分注意している	4			・個人情報の扱いには十分気を付けている。 ・写真など掲載の際には顔を隠すなどの配慮をしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			・意思疎通が図れるよう伝え方など配慮し、確実な情報提供を心掛けている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		2	2	・招待はしたことが無いが、他事業所への訪問、参加はある。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1		・マニュアルはすぐに読める場所に掲示している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			・年2回、防災訓練をしている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			・年1～2回、資料や動画を使って研修を実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	2		・身体拘束の必要がある児童はいない。 ・契約時に説明をしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	1	1	・アレルギーの原因であるものを使用したり、与えないように気を付けている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			・毎月2回ヒヤリハット事例を挙げ、記録している。